

施策評価シート (平成24年度の振り返り、総括)

作成日 平成25年 06月 26日

施策 No.	11	施策名	生涯スポーツ・レクリエーションの振興
主管課名	スポーツ振興課	電話番号	0285-84-2811
関係課名	生涯学習課、福祉課		

施策の対象	市民								
対象指標名	単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	26年度見込
人口	人				82,997	82,584	82,136	81,511	85,500

施策の意図	市民一人一人が、自主的にスポーツ・レクリエーションを行うことにより、心身ともに健康で活力のある生活を形成する。								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法(算定式など)	市民意向調査及び、スポーツ振興課の集計により把握する。 ・市民意向調査は平成25年6月の調査結果を使用する。								
成果指標名	単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	26年度基本計画目標値
何らかのスポ・レクを行っている市民の割合	%				55.4	54.8	49.6	50.5	55.0
市スポーツ施設利用者延人数	人				479,683	473,299	449,285	547,695	550,000
スポーツ教室数	教室				16	17	16	23	
参加人数	人				436	451	546	594	

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	スポーツ・レクリエーションは市民が自主的に行うことが基本である。行政はスポーツ・レクリエーション活動の機会の提供と施設などの環境の整備が役割となる。
-------------------------	--

<p>24年度の 評価結果</p>	<p>1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）</p> <p>(1) 施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何らかのスポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合は、平成22年度：54.8%、平成23年度：49.6%、平成24年度：50.5%で推移している。 ・市スポーツ施設利用者の延べ人数は、平成22年度：473,299人、平成23年度：449,285人、平成24年度：547,695人で推移している。平成23年度の減少は、東日本大震災により施設が損傷し2箇月から半年の間使用不能であったことが影響していると考えられる。 <p>補足事項参照</p> <p>(2) 近隣他市との比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内他市では同様な調査をしていないので比較するのは難しいが、「栃木県政世論調査」のスポーツ活動実施率（週1日以上スポーツをしている比率）は平成22年度：34.2%、平成23年度：37.1%、平成24年度：36.7%であるのに対し、真岡市の「市民意向調査」でのスポーツ・レクリエーションの実施率は平成22年度：54.8%、平成23年度：49.6%、平成24年度：50.5%であり県と比較して高い水準にある。 <p>(3) 住民期待水準との比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後何らかのスポーツを始めたいと思っている割合は55.9%である。 <p>市民意向調査における上位3位のスポーツ・レクリエーション</p> <p>1位ウォーキング11.2% 2位野外バーベキュー8.9% 3位ハイキング8.6%</p>
	<p>2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・レクリエーションへの取り組みのきっかけとして、各種スポーツ教室を開催している。 ・教室数と参加者数は、平成22年度が17教室、451名、平成23年度が16教室、546名(震災により2教室中止)、平成24年度が23教室、594名の参加があり、内容についても、子ども向け、親子向け、一般向けと年齢・性別を問わず参加できるものとしている。 ・子育て世代は、スポーツ・レクリエーションへの参加が少ない傾向であることから、子どもと一緒に参加できる親子スポーツ教室として、親子ショートテニス、わんぱく親子スポーツ（トランポリン・スマイルボーリング等）、チャレンジ親子スポーツ（スカイクロス・スポーツ吹き矢等）を実施した。 ・スポーツ・レクリエーション活動拠点として総合運動公園の全体整備面積26.6ヘクタールの内、第1期工事（陸上競技場）7.8ヘクタールを10億8000万円の事業費で平成23年度より3年間の予定で着工した。

24年度の 評価結果	3. 施策の課題認識と改革改善の方向
	<p>・市民意向調査結果では、今後行ってみたいスポーツ・レクリエーションとして、ウォーキングやハイキングの割合が高いため、ニーズに応じてウォーキング教室やトレッキング教室を開催する。</p> <p>・子育て世代は、スポーツ・レクリエーションへの参加が少ない傾向であることから、子どもと一緒に参加できる教室として、ショートテニス、トランポリン、スマイルボーリング、スカイクロス、スポーツ吹き矢等のニュースポーツの教室を開催し、スポーツ・レクリエーションに取り組む機会を増やす。</p> <p>・平成26年度にはねんりんピック栃木2014が開催され真岡市ではマラソン交流大会が開催予定であり、シルバースポーツ実施率の向上を目指す。</p> <p>・引き続き、スポーツ・レクリエーション活動拠点として、総合運動公園整備計画に基づいて都市計画課及び関係団体等と連携を図るとともに、財政状況を勘案しながら順次整備していく。また、陸上競技場の完成に合わせ、totoの支援を受けて平成26年度に総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会を立ち上げ、平成28年度に総合型地域スポーツクラブを設立して、より一層の生涯スポーツ・レクリエーションの振興を図っていく。</p>

補足事項

1. 施策の成果水準とその背景

(1) 施策成果の時系列比較の補足資料

各体育施設の利用状況内訳（延べ利用者数：547,695人）

1 体育館 延べ150,771人

総合体育館：49,472人、武道体育館：33,517人、スポーツ交流館：42,972人、附属体育館：7,511人
弓道場：2,512人、二宮体育館：8,948人、二宮弓道場：245人、地域体育館：5,594人

2 運動場 延べ177,787人

東運動場：13,113人、北運動場：30,651人、市民公園：16,228人、大谷台公園：9,846人
三ツ谷公園：2,891人、勝瓜公園：5,531人、松山公園：66人、鬼怒自然公園：41,187人
暫定広場：22,855人、二宮運動場：30,385人、二宮東部運動場：3,710人、きぬわいわい広場：1,324人

3 学校体育施設 延べ219,137人

小学校体育館：83,671人、小学校運動場：110,201人、中学校体育館：12,569人、
中学校柔剣道場：11,800人 真岡工業高校（夜間）：896人